

自宅に滞在する際の心得

1. 周囲が浸水してからの自宅外避難は危険ですのでやめましょう

洪水時において安全に自宅滞在が可能か否かは、07～26ページの逃げどきマップでご確認ください。

2. 身の安全を確保しましょう

水圧でドアが開かなくなり危険です。地下室や低い場所での滞在は避けましょう。



3. 水道・電気・ガス・トイレなどのライフライン停止に備えましょう



ライフラインの停止は長期に及ぶ可能性もあります。ライフラインが復旧するまでの数日間のために、飲料水や食料などの**備蓄があると安心**です。



4. 家屋や家財の被害軽減を図りましょう

(1) 家屋の浸水を軽減しましょう

簡易水防工法は、ご家庭にある物を使って家屋への浸水の流入を防ぐ方法です。水深が浅い段階では有効です。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止も重要です。

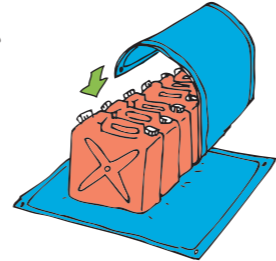
【例1】ゴミ袋による簡易水のう

40リットル程度の容量のごみ袋を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。これをダンボール箱に入れ、連結して使用します。



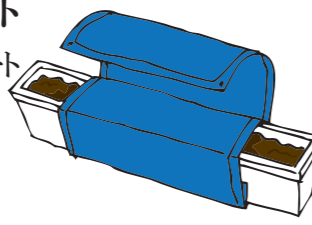
【例2】ポリタンクとレジャーシート

10リットル又は20リットルのポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み、連結して使用します。



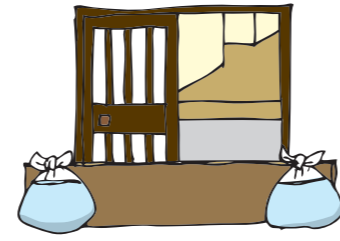
【例3】プランターとレジャーシート

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。



【例4】止水板

出入口を長めの板などを使用し、浸水を防ぎます。



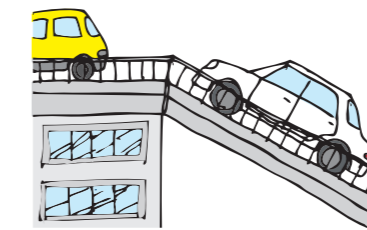
(2) 家財の被害を軽減しましょう

水に浸ってしまった家財は一瞬にしてゴミと化してしまい、災害後には街中が災害ゴミであふれかえることになります。出来る限りの家財被害の軽減を図りましょう。

■ 通帳・保険証・パスポートなどの重要書類は、浸水を免れる高い場所に移動しておきましょう。



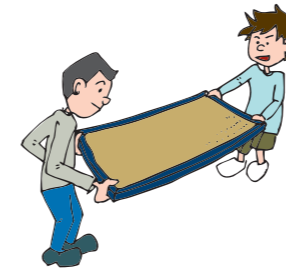
■ 自家用車を早めに安全な場所へ移動しておきましょう。



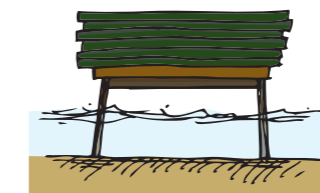
■ 自家用車の移動が困難な場合であっても、せめてエンジン部分の浸水だけでも防ぎましょう。



■ 畳の高い場所へ移動しておきましょう。



■ 畳の移動が困難であっても、せめて食卓などの上に乗せておくだけでも、畳の浸水を防げる場合があります。



■ 思い出のつまったアルバム(写真)も、いちど水に浸かると台無しになってしまいます。



■ 数日分の衣類だけでも浸水から退避させておきましょう。



■ 高価な家電製品など、簡単に移動できるものは出来るだけ高い場所へ移動しておきましょう。

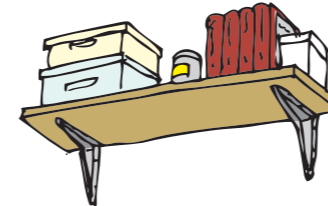


■ 重い家財を少ない人数で無理に移動しようとする、思わぬケガにもつながりかねません。

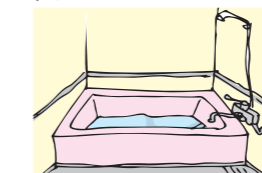


普段からの備えや生活の知恵がいざという時に役立ちます。

■ 家の様々な場所に厚板で丈夫な棚を作っておくと、いざという時に大事なものを浸水から防ぐことができます。



■ 風呂の浴槽の水は流さずに貯めておきましょう(下水の逆流防止、生活用水としての利用、下流地域の水位低減などの利点があります)。



■ 浸水被害からの生活復旧には想像以上の費用がかかります。水害に対応した保険に加入しておくことで、生活復旧への支援が受けられます。



思わぬ場所からの浸水を防ぎましょう。

■ 床下収納のふたが開いて水が入ってくる場合があります。重しをして浸水を防ぎます。

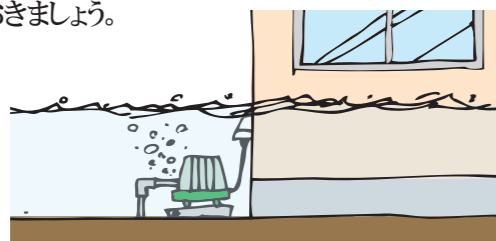


■ 増水で下水が逆流すると、トイレから水が噴き上がることがあります。ビニール袋に水をためて重しにすると抑える効果があります。

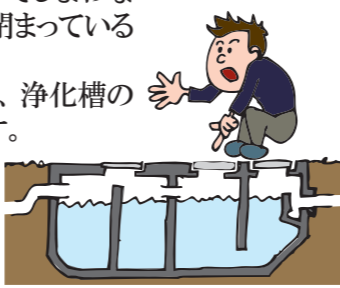


浄化槽の被害を軽減しましょう。

■ プロアー(浄化槽ポンプ)の電源を切りましょう。また、水没すると壊れてしまう危険が高いため、高い場所に移動しておきましょう。



■ 浄化槽に大量の土砂や泥が浸入してしまわないように、浄化槽のフタがしっかりと閉まっているか確認しましょう。若干の水の流入で済んだ場合には、浄化槽の被害も最小限に留めることができます。



5. 被災後の安全点検

- 断線した電線が家屋に触れていないか確認しましょう。
- 落下や倒壊の危険物は無いか確認しましょう。
- 浸水の被害にあつたら念入りに消毒しましょう。

- 水害を受けたら衛生に注意しましょう。水道水は煮沸し、手の消毒を忘れないようにしましょう。
- 活動時にケガをしないよう、肌を露出しない服装で、ヘルメットも着用しましょう。
- 家の中は風通しをよくして乾燥させましょう。